

結びのことは

こんなときはこの1冊

2021年7月末、新型コロナ感染者が1日2,000人を突破したインドネシアは、世界最悪の状況にあった。患者で溢れかえる病院に駆け込んでも治療を受けられず、自宅療養中の家族が亡くなったという話は、筆者の周辺でも珍しくなかった。感染したらいへん、と誰もが危機感をもった。

そこで庶民がしゃかりきになったのは免疫力の強化で、そのために頼ったひとつがジャムウ(jamu)という飲みものだ。「伝統」「ジャワ王宮秘伝」のイメージを纏った健康増進ドリンク、と言ってもよいだろう。主原料はうこん、ばんごん、くすりうこんなどのショウガ科植物の根茎、キンマの葉、タマリンド、ヤシ砂糖のような天然素材だ。行商人による手製のものがグラス1杯3,000ルピア(約30円)程度で飲めるのだから、庶民にはありがたい。しかも、コロナ禍中でジャムウ文化の中心地生まれの大統領が「自分も愛飲している」と語ったものだから、その人気はうなぎ上りで、原料価格が急騰したほどだ。

原料から推察して、ジャムウの習慣的な摂取には健康維持やリフレッシュの効果がありそうだ。しかし、即効性や治療効果までは望めない。そうであっても、高額な近代医療には手が届かず、熱心に行商人からジャムウを買ったり、ドクンと呼ばれる呪術師に祈禱とともにジャムウの処方依頼したりする庶民の姿は数十年前とそれほど変わらないことが、コロナ禍で明らかになった。

筆者も、うこん、レモングラス、シソ科植物のねこのひげ、マンゴスチンの皮などをつかった各種ジャムウを好んで飲む。とはいえ、そのおかげで差し当たり新型コロナやインフルエンザにまったく寄りつかれない、と考えるほどジャムウを信用しているわけでもない。

この不思議な飲みものに関心をもたれた方にはまず、『ジャムウの物語：インドネシアに伝わる美と健康の遺産』をお勧めしたい。(絶版につき、購入はできないので所蔵資料をご利用ください。)

外国語学部アジア学科准教授 間瀬 朋子



ジャムウの物語：
インドネシアに伝わる美と健康の遺産

ノファ・デウィ・ステアブディ著

▼『ジャムウの物語：インドネシアに伝わる美と健康の遺産』
ノファ・デウィ・ステアブディ著、フレグランスジャーナル社、
2019
(請求記号：499M II 2) (所蔵館：地域研究センター図書室)



DYNAMIS



CONTENTS

図書館
事務室長から
ひとこと

DYNAMISには、最新号以外にも興味を引かれる情報が満載です。特に資料紹介のページには、「BACK TO THE EDO (69号)」「名古屋街の散歩 (61号)」「剣と魔法の国へようこそ (50号)」など、興味が膨らむ特集があります。また、「図書館あれこれ50年インタビュー (36号、37号)」など、裏話的な特集も載っています。全てのDYNAMISは、ライネルス中央図書館Webページで読むことができますので、一度、アクセスしてみてください。

図書館事務室長 石井 知好



DYNAMIS

図書館報 デュナミス No.80
2024年4月1日発行

ISSN0917-4508

編集：南山大学ライネルス中央図書館
撮影協力：南山大学写真クラブFOCUS
[撮影者]高橋祐梨、平江一幾、黒川快
[モデル]水野琴音、平江一幾、熊澤溪心

図書館をもっと便利に使おう！ P.1-2
イベントや展示企画を募集！ P.3-4
図書館研修生になるには P.5

図書館研修生生活動報告 P.5-6
結びのことは「こんなときにこの1冊」 P.7
図書館事務室長からひとこと P.7

南山大学ライネルス中央図書館
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone:052-832-3707

デュナミスの
バックナンバー
はこちら



<https://office.nanzan-u.ac.jp/library/>

図書館を もっと便利に使おう!

図書館を利用するうえで、より便利に使える方法をご紹介します!

MyLibraryを活用しよう!

OPACのトップページ左側にMyLibraryのメニューがあります。

1番上の「利用状況の確認」からは、貸出資料の更新(貸出期間の延長)もできます。
※条件あり

また、1番下の「新規購入依頼」からは、図書館に所蔵のない資料の購入希望依頼をすることもできます。
読みたい本のリクエスト、大歓迎です。



レファレンスサービスってナニ?

資料探して困ったときに、相談できる窓口です。

- 資料の探し方がわからない
- OPACの使い方がわからない
- ほしい本の場所がわからない
- 他の大学には所蔵がありそうだけど...

サービスカウンターでの相談はもちろん、E-mailでの相談も受け付けています。気軽に相談してみてくださいね。



図書館長からひとこと



図書館長
西岡 淳先生

いま学生の皆さんが図書館で本を探そうとする際、図書館Webページの「蔵書検索(OPAC)」から書名を検索すれば、一瞬で配置場所や請求記号の情報が得られます。でも、図書が分野別に配架された図書館の中を実際に歩き、並べられた本の背中を見てみるなら、「この本は何の本だろう」という疑問が湧き、それをきっかけに新たな発見が必ず得られると思います。「である」「つながる」「かわる」場として設計されたライネルス中央図書館に、ぜひ足を運んでみてください。

自動貸出返却機、使ってる?



館内には、自動貸出返却機が2台あります。簡単に貸出・返却手続きができるので、ぜひ活用してください。カウンター混雑時もスピーディーに手続きが可能です。

閉館中にも返却できます!



図書館の開館時間外は、入口に返却ポストを置いています。休館日や朝早く、夜遅くでも手軽に返却できます。

図書館にもラーニングコモンズ!



図書館3階には、ラーニングコモンズが2部屋あります。モニターがある部屋もあり、グループでディスカッションをしたり、ゼミの発表の練習をしたりできます。

知らなかった便利がいっぱい!





ライネルス中央図書館では皆さんからのイベントや展示企画を募集しています!

NANTOルームは、様々なイベント(講座・上映会・ワークショップ・ギャラリートークなど)を開催できるスペースです。イベント内容は、本・視聴覚資料・図書館をテーマとするもの、図書館資料を活用するもの、ライネルス中央図書館ならではのもの、図書館事務室とのコラボレーション企画等を中心に幅広く募集しています。また、**展示エリア**は、学部・学科および研究所・センターによる企画、学生の発表等、知的好奇心を刺激する空間として活用していただくことが可能です。まずは図書館事務室にご相談ください!

NEWS

ブラウジングコーナーに「ジブリコーナー」を新設

～南山大学はジブリパークのオフィシャルパートナーの一員です～

ブラウジングコーナーで「ジブリがいっぱいライブラリー」と称して学生企画を実施したのに引き続き、ジブリ関連資料を集めています。気軽に世界観に触れてみてください。



新入生歓迎企画

図書館では新入生を対象とした歓迎企画を毎年行っています。2024年度は「シールラリー」で館内のスポットを探索する企画です。ゴールした新入生のみさんには記念品のプレゼントが是非参加してください。



セレモニー・講演会

エントランスラウンジではライネルス師の南山学園の建学の精神に触れることができ、レーモンド建築に関する展示が常設されています。活用を希望される際はお知らせください。2023年4月にライネルス中央図書館としてリニューアルした際には、記念式典や講演会を開催しています。



トークカフェ

NANTOルームではモニターを設置し、軽食の持ち込みも応相談として学生や教職員の皆さんからの企画をお待ちしています。展示エリアの企画と連動し、NANTOルームでの講演会を行うなどの企画も実施可能です。



エントランスラウンジを活用アート企画

学生の皆さんからの柔軟な発想での企画を期待しています。写真は、学生ボランティアスタッフが実施した、大きなガラス面を使った七夕にちなんだ企画。各々の参加者が願い事を書いた付箋でガラス面が埋め尽くされ、アートが完成しました。



BOOK TALK

ブックトークやビブリオバトルなどを「企画してみたい」「参加してみたい」という要望やご相談にも対応します。2023年度の図書館企画では、南山短期大学出身の作家である西山ガラシャさんをお迎えしました。



南山チャレンジプロジェクト採択団体「ActivateNRL」企画展示

展示エリアはサークルやゼミなどの発表の場としても利用できるエリアです。2023年度は南山チャレンジプロジェクト採択団体「ActivateNRL」の学生がセレクトしたおすすめ本を紹介しました。



上映会

NANTOルームのモニターを利用して上映会の開催が可能です。上映作品の選定からアドバイスさせていただきますので気軽にご相談ください。図書館企画では「NANTO de シネマ」として、図書館所蔵資料を紹介しています。



ミニコンサート

通常は静寂を求められる図書館ですが、企画内容に応じて館内での演奏や歌唱にも対応します。2023年度は南山チャレンジプロジェクト応募企画として、聖歌隊 南山大学スコラ・カントールムが名古屋出身の作曲家・高田三郎が作曲した4曲を平和への願いを込めて聖歌を演奏しました。



図書館研修生になるには…

図書館内の業務を体験できる「図書館研修生」にチャレンジしてみよう!

- step 1** 司書課程・学校図書館司書教諭課程の授業を1クォーター以上(または、1科目以上)受講している・受講していた学生が対象になります。
- step 2** 図書館Webページに掲載された研修内容・研修スケジュールを参照し、PORTAアンケートにて希望の研修を申し込んでください。先着順で定員に達し次第募集を締め切ります。
- step 3** 採用が決定したら、研修スタート!



図書館研修生活動報告

2023年度は18名が図書館研修生として活動を行いました。そのなかで8名の方に活動報告を寄せていただきました。

図書コース Books



人文学部日本文学学科 綾野 佑奈さん

図書の発注と装備を学ぶことができる「図書コース」に参加しました。今回の研修では、学内の書店で実際に図書館に配架される本を選んだり、それらの本の書誌情報を登録する作業を行ったりしました。図書が実際に利用できるまでの手順やそこに携わる方々の数多くの作業など、普段利用するだけではわからない図書館の内面を体験することができました。書誌情報の登録を始めとして、司書課程の授業で学んだことが実際に体験できたことは非常に自分の糧になったと思っています。

人文学部日本文学学科 石倉 永遠さん

私は、図書館研修の「図書コース」を受講しました。研修では、図書の発注から装備までの一連の業務を体験することができました。実際に、自分が選んだ本が図書館に並ぶまでを体験できた貴重な機会でした。普段図書館を利用する上では見ることのできない業務ばかりで、毎回新たな学びがありました。研修を通して、選書から図書館の棚に並ぶまでには、大変緻密な作業を行っていることを実感しました。司書の仕事の一部を実際に体験できたことで、司書課程の授業の理解をより深めることができました。



人文学部日本文学学科 伊東 栞さん

私は図書館に入れる本を自分で選び、実際にその本が図書館に並ぶまでの業務を体験しました。実際にその本を読んで内容を検討した上で本の置き場所を決めたり、本が傷まないように丁寧にフィルムを貼ったりするなど、私が想像していたよりも細やかで正確な作業が必要だと感じました。また業務をするなかで、司書課程で学んだ用語が出てきたので、授業の内容をより理解することができたと思います。実際に図書館の業務を体験することで、司書課程の授業の励みになりました。

人文学部人類文化学科 小島 遥さん

このコースでは、資料の選定から、OPACへの登録、装備までの一連の流れを体験しました。資料の選定では、選定基準をもとに、予算や図書館の利用者層を考慮しつつ、未納入の図書を選ぶことの難しさを学び、OPACへの登録では、書誌情報を一冊一冊、正確に入力する大変さを感じました。装備では、資料のカバーや請求記号ラベルの貼付などを行いました。作業を通して、利用者が資料を探しやすく、また、図書館側が資料を管理しやすくするために、様々な工夫がされていることがわかり、以前よりも資料を大切に扱おうという気持ちが強まりました。



展示企画 コース Exhibition

経済学部経済学科 大林 愛子さん

企画考案から実際の設営までの展示企画コースの一連の流れを体験しました。展示企画は想像していたよりも楽しい作業ばかりで、様々な視点を考慮しながらテーマを決めていく過程が面白かったです。掲示物の作成では、出版社や著者などの情報を打ち込んだり、書誌情報をQRコードにしたりといった、細かい展示の掲示作りに少し苦労しました。しかし、自分のアイデアが実際に展示という形になった時には達成感を得ることができ、非常に嬉しかったです。企画の面白さと難しさの両方を実感できた良い機会でした。



返本 コース Return

人文学部心理人間学科 今村 琉里加さん

今回の研修では、「返本コース」を体験させていただきました。研修中は返却された本を階ごとにもとに位置に戻すという作業を行いました。普段何気なく利用しては気づかないような小さな配慮がなされていたことを発見できました。図書館員の方が本を配架するとき心がけていらっしゃることを教えていただいたことが印象的でした。図書館の構造や本の配置場所など今まで知らなかった有益な情報を知れた上、図書館の裏側を垣間見れるという貴重な経験をさせていただきました。

人文学部人類文化学科 佐伯 風香さん

今回の研修では、図書を返本する業務を体験させて頂きました。研修前、図書の返本とは、ただ本を元の位置に戻す作業であると思っていました。しかし、実際に体験してみると重い本を持って、フロアじゅうを歩き回り、返本するため、かなり体力が必要な業務であると感じました。また、どうしたら効率的に本を返すことができるのか常に考えながら返本する必要があるため、体力だけではなく、頭も使う必要があることが分かりました。実際に返本業務を体験することができ、図書館や司書の仕事への理解が深まりました。



人文学部日本文学学科 瀬理 あいるさん

ガイダンスで図書館の利用の仕方や資料について大まかな説明は受けていても、なかなか実際の様子をイメージすることができずあまり理解できていませんでしたが、研修で実際の資料を用いてすべての階の返本作業を行ったおかげで、どのような資料がどこに所蔵されているかが理解できました。配架場所を探すことに慣れたことはもちろんですが、資料そのものへの理解が研修を受ける以前に比べ深まったことで、今後どのように、どんな時に、どの資料を使うのかを考慮できるようになったことがこの研修を受けて最も強く感じた成果だと思います。

